



AI駆動型FTO調査戦略：比較分析

パラダイムシフトの航海図：Summaria vs. Patsnap Eureka



「読解支援（Augmentation）」と「自律型エージェント（Automation）」の選択

エグゼクティブサマリー：知財インテリジェンスの二つの進化経路

Summaria: 効率化の追求



- アプローチ：Human-in-the-loop（人間参加型）
- コア価値：「読む（Reading）」負荷の劇的低減
- 強み：日本国内の実務適合性と低コスト
- 哲学：熟練者の能力拡張（Augmentation）

Patsnap Eureka: 探索の変革

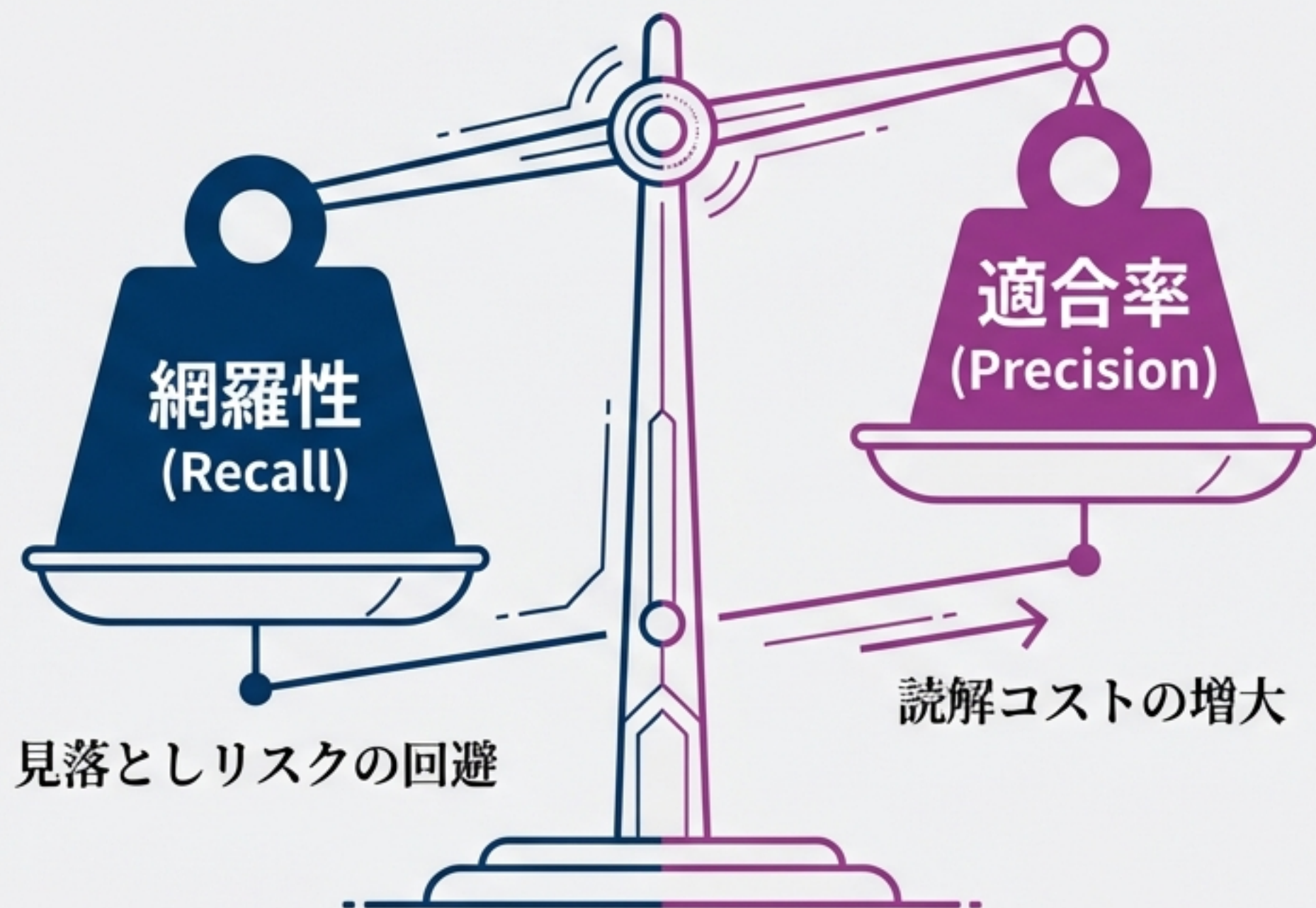


- アプローチ：End-to-End（自律完結型）
- コア価値：「探す（Searching）」プロセスの再定義
- 強み：グローバル網羅性とR&Dの民主化
- 哲学：業務プロセスの自動化（Automation）

戦略的結論：

選択は機能差ではなく、「組織のリスク許容度」と「リソース配分」の方針に依存する。

FTOのジレンマ：網羅性（Recall）と適合率（Precision）の永遠のトレードオフ



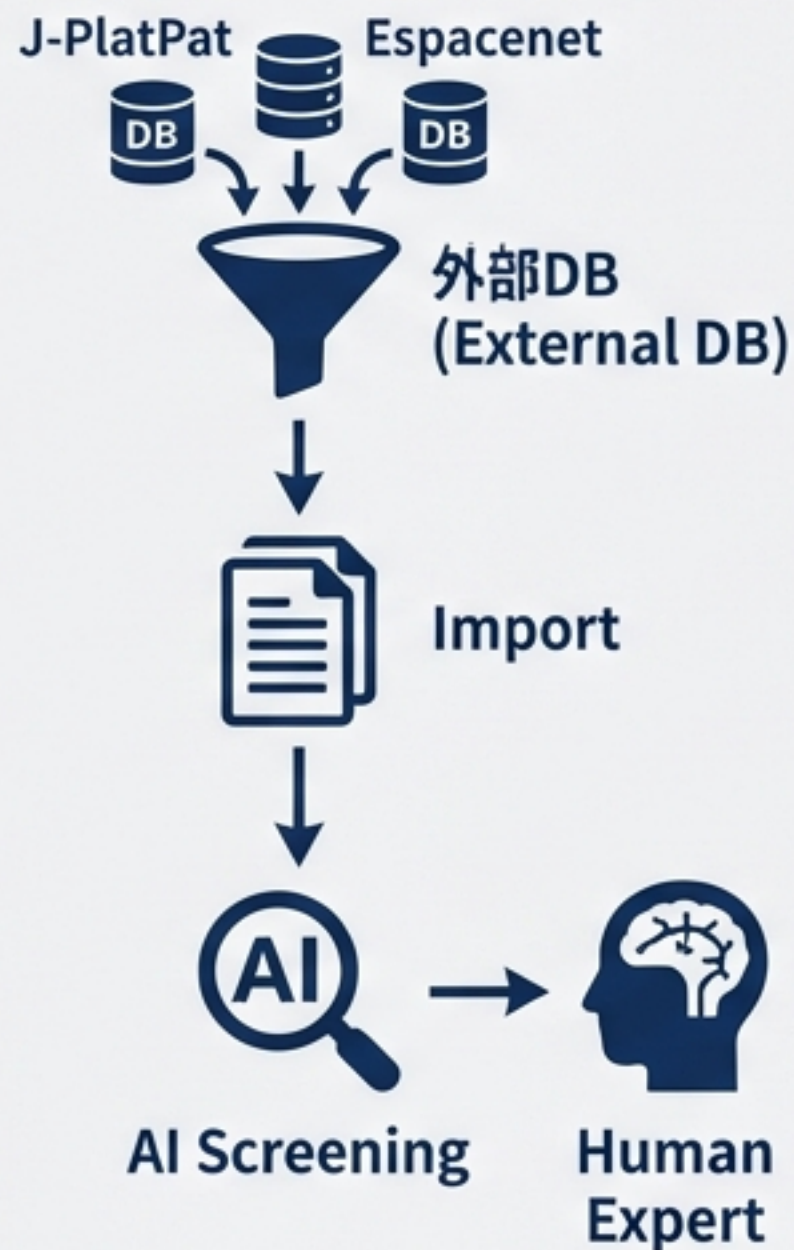
AIによる解決策 (The Opportunity)



LLM（大規模言語モデル）は、キーワードではなく「文脈」を理解することで、このトレードオフを破壊する。
ブール論理では拾えない「類似技術の異なる表現」を検出し、ノイズを瞬時に選別する。

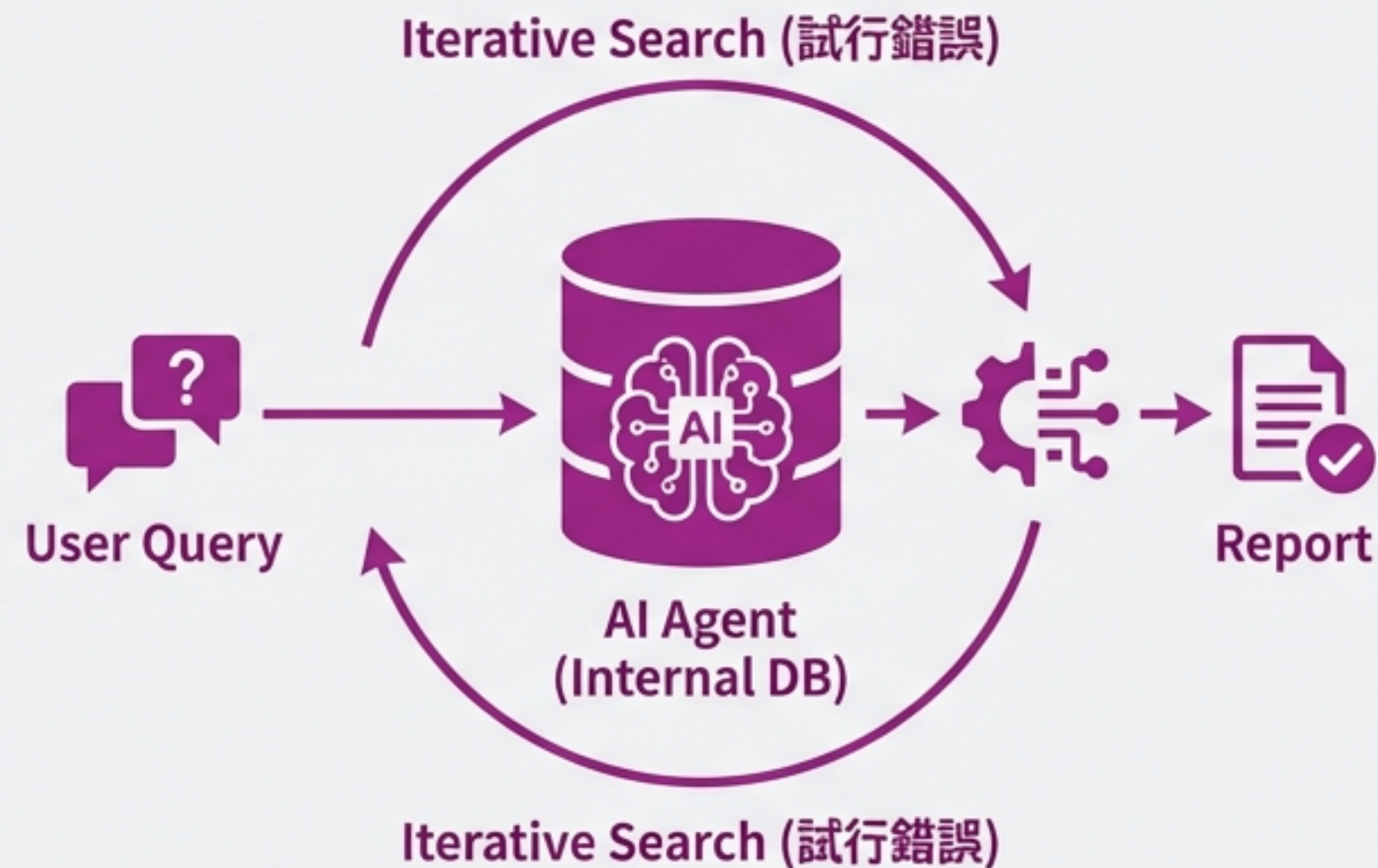
両雄の設計思想：読解支援 vs 自律型エージェント

Summaria



入力：外部DB CSV / 役割：人間が検索を支配し、AIが読む

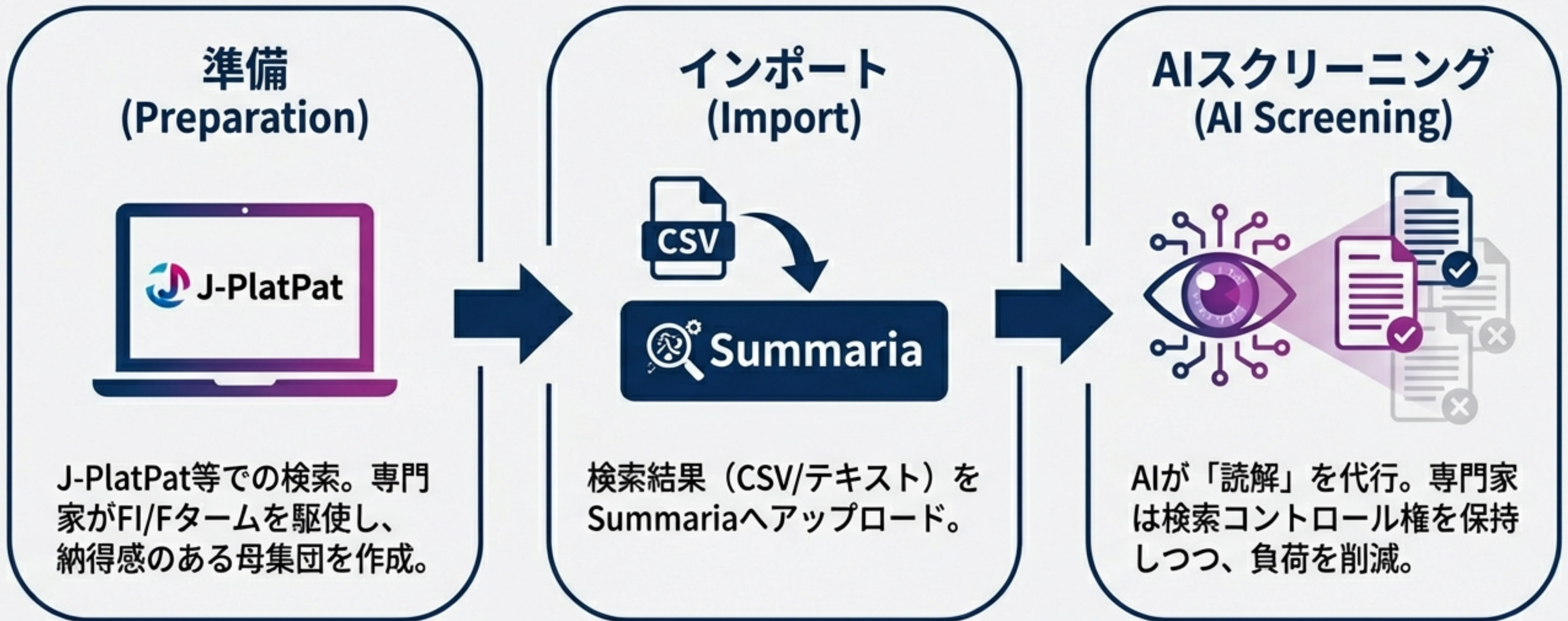
Patsnap Eureka



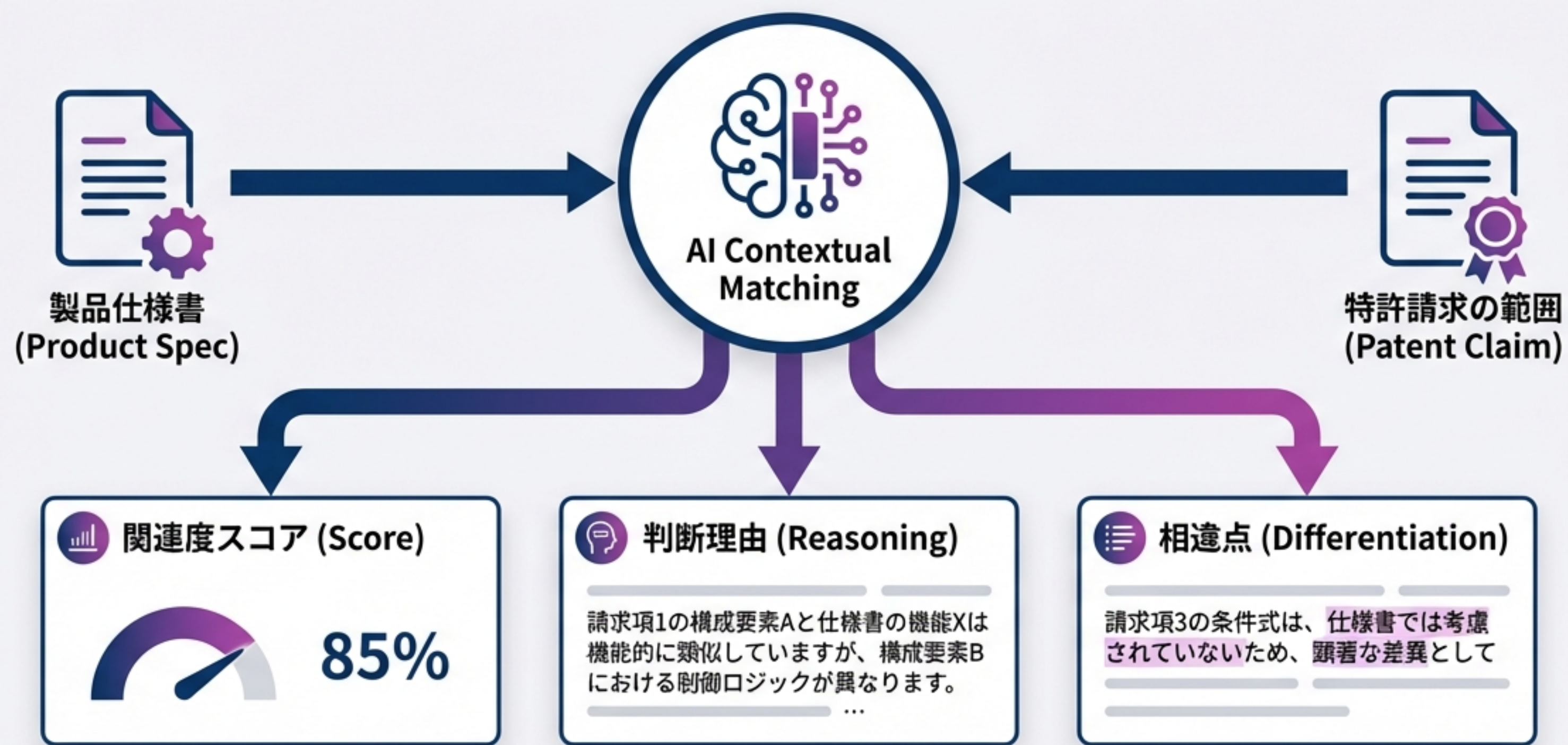
入力：自然言語 / 役割：AIエージェントが検索・分析を自律実行

Deep Dive: Summaria — 専門家のための「読解外骨格」

日本の特許実務の「リアリティ」に即したワークフロー



Summariaのコアメカニズム：対比支援とノイズ除去



Validation Data

実績データ：過去の特許検索競技大会データにて、上位100件の再現率 85% を達成

Deep Dive: Patsnap Eureka — 自律型R&Dエージェント

検索の民主化：ブール論理から自然言語へ



エレベーターのドアの動きを加速度センサーで監視する技術を探して。

承知しました。以下の技術的特徴 (Technical Features) を抽出しました：

- 1. 加速度センサー
- 2. ドア開閉機構
- 3. 異常検知アルゴリズム



1. 入力 (Input): エンジニアの言葉 (自然言語) で検索可能。



2. 構造化 (Structuring): AIが技術要素を自動分解・定義。



3. 実行 (Execution): AIエージェント「Hiro」が自律的に検索を実行。

Patsnapのコアメカニズム：学習ループとGlass Box

マルチラウンド検索 (Iterative Search)



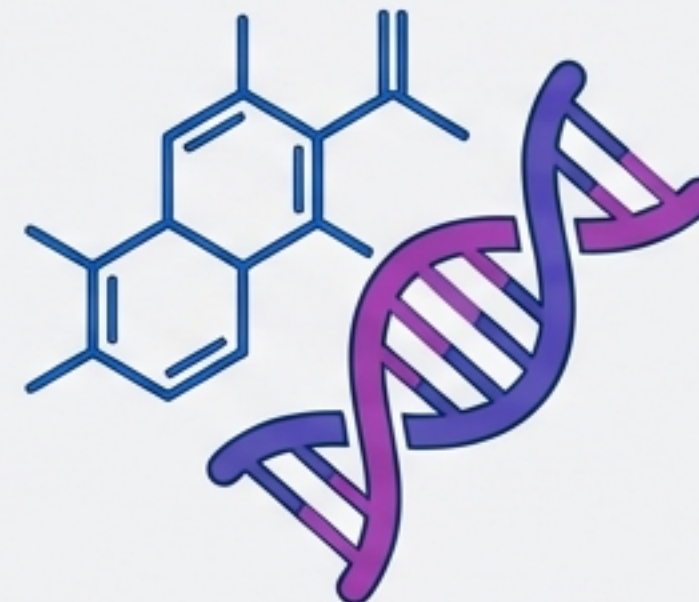
一度の検索で終わらず、初期結果から新たなキーワードやIPCを学習し、クエリを自律的に拡張。

Glass Box AI (透明性)



ブラックボックス化を回避。
リスク判定の根拠となる明細書の段落をハイライト表示。

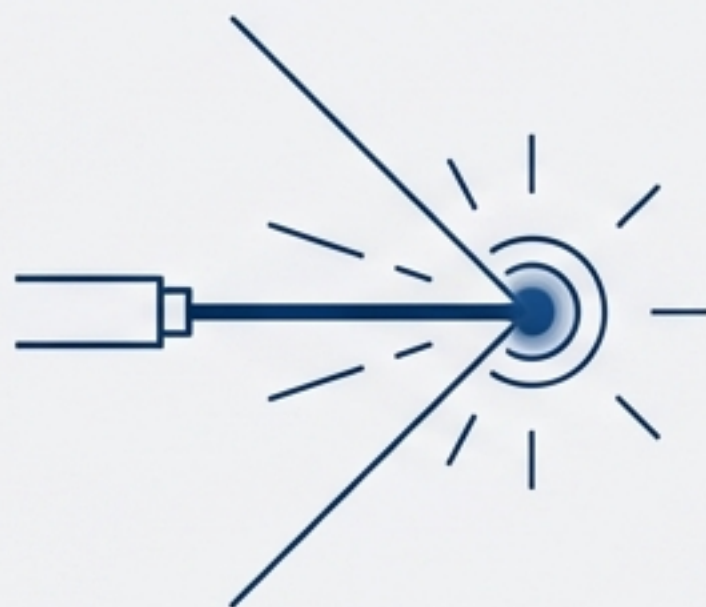
化学・バイオ特化 (Chemical & Bio)



テキストでは検索不可能なマルクーシュ構造や配列情報の検索に対応。

比較分析：検索精度 (Precision) vs グローバル網羅性 (Recall)

Summaria: 人間主導の精度 (Human-Controlled Precision)



- ・ **再現率**：人間の初期検索スキルに完全依存。
- ・ **強み**：高品質な母集団からの強力なノイズ除去。
- ・ **リスク**：母集団作成時の漏れは救済できない。

Patsnap: AI最大化の網羅性 (AI-Maximized Recall)



- ・ **再現率**：セマンティック検索が「未知の未知」を発見。
- ・ **強み**：ブール検索比で +40-60% の関連特許を識別。
- ・ **リスク**：膨大な検索結果の確認コスト（AIが整理するが量が多い）。

比較分析：言語処理とローカライゼーション

Summaria

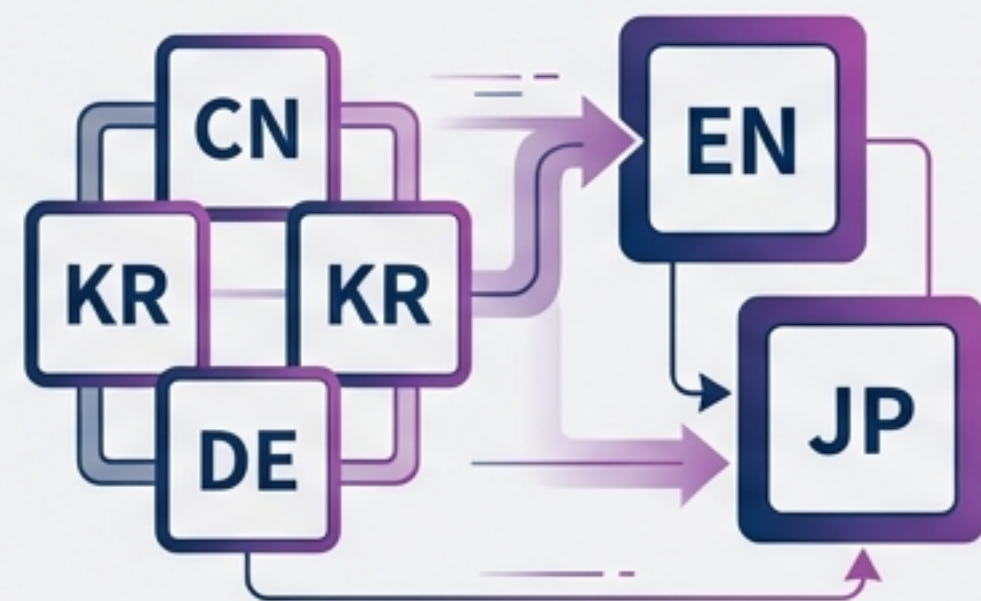
国内特化の深さ (Domestic Depth)

特

- 日本語ネイティブ：係り受け解析や、日本特有の曖昧な技術表現を正確に解釈。
- アウトプット：そのまま報告書に使える自然な日本語。

Patsnap

グローバルな広がり (Global Breadth)



- 翻訳パワー：中・韓・独の特許を英語/日本語でクロスボーダー検索。
- 課題：翻訳によるニュアンスの喪失。日本特許の微妙な権利範囲解釈には限界も。

比較分析：コスト構造と投資対効果 (ROI)

Summaria: Efficiency Play (効率化)



- モデル：SaaSサブスクリプション
- コスト：月額 ¥8,000～
- 対象：個人事務所、SME、特定プロジェクト
- ROI：工数削減（時間単位）

Patsnap: Strategic Investment (戦略投資)



- モデル：エンタープライズ年間契約
- コスト：高額予算 (\$\$\$)
- 対象：グローバル企業、R&D部門全体
- ROI：開発加速、訴訟リスク回避（事業単位）

機能別適合性ヒートマップ

ツール特性比較

Feature Name	Summaria	Patsnap Eureka	適合性スコア (Compatibility Score)
 検索機能（自律型）	外部DB依存 (読解支援のみ)	AIエージェント (自律検索)	
 日本語読解・解析	高精度 (日本語特化)	翻訳対応 (グローバル標準)	
 グローバル収録国数	国内中心 (要約作成)	170カ国以上 (2億件超)	
 化学・構造検索	テキストのみ	構造・配列検索 (化学特化)	
 導入コスト	月額8,000円～ (高コスパ)	法人向け価格 (エンタープライズ)	



High

Low

Summariaは「日本語読解」と「コストパフォーマンス」で最高評価となる一方、Patsnapは「検索機能（自律型）」「グローバル対応」「化学・構造検索」で優位性を示す。

戦略的推奨：あなたの組織はどちらを選ぶべきか？

Case A: 国内特許事務所 / 中堅・中小企業



推奨：Summaria

- J-PlatPatでの検索スキルがある。
- とにかく「読む時間」を減らしたい。
- 予算は最小限に抑えたい。
- 日本語特許の精緻な解釈が最優先。

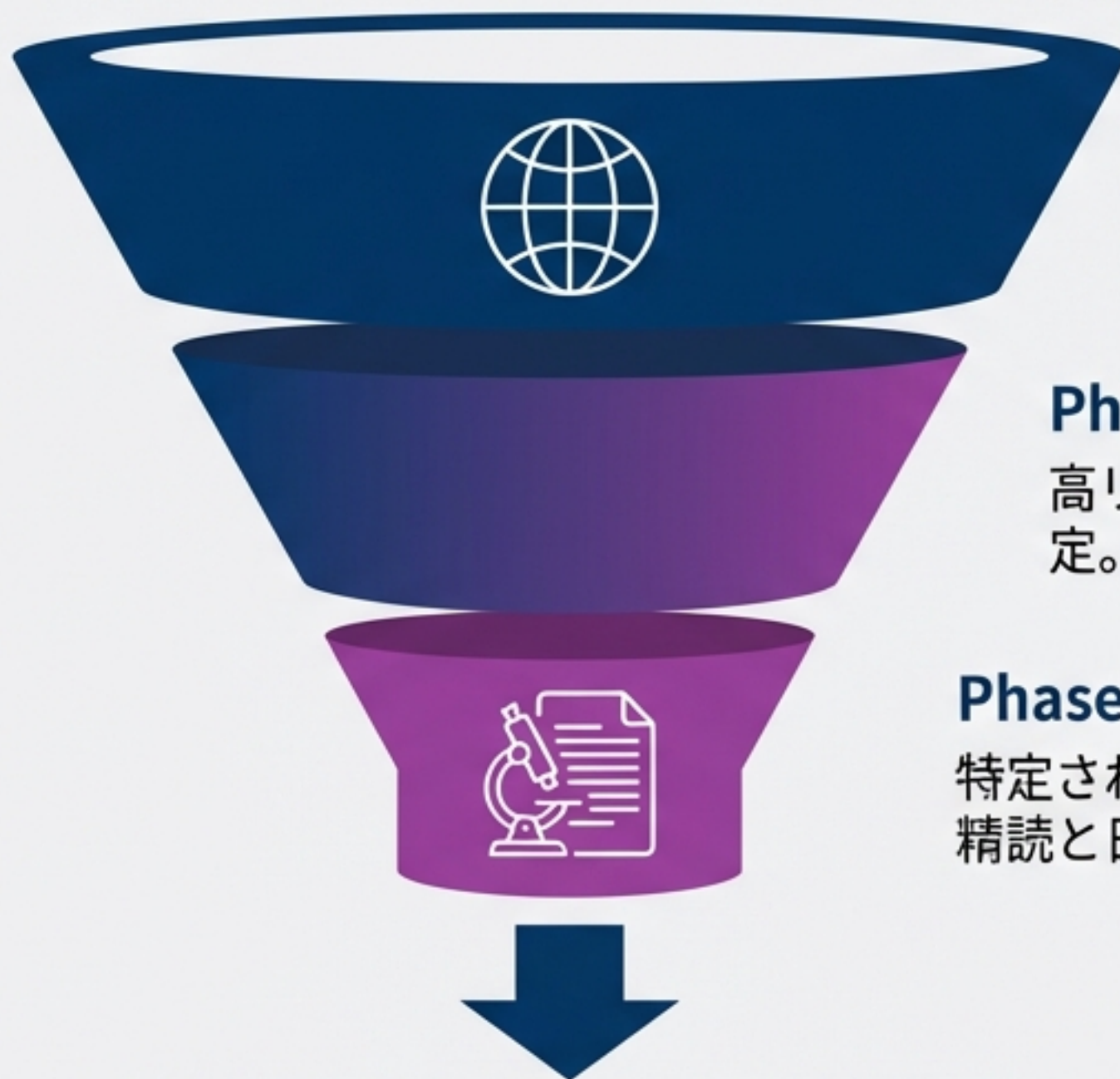
Case B: グローバル大企業 / R&D部門



推奨：Patsnap Eureka

- 世界各国でビジネスを展開している。
- エンジニア自身に初期調査をさせたい。
- 化学・バイオ分野を扱っている。
- 「開発スピード」と「網羅的リスク回避」が最優先。

ハイブリッド戦略：高リスクFTOのための「ゴールドスタンダード」



Phase 1: Global Broad Net (Patsnap)

Patsnapでグローバルかつセマンティックな広範囲検索を行い、網羅性（Recall）を最大化。

Phase 2: Risk Filtering

高リスクな日本特許や、詳細な対比が必要な重要文献を特定。

Phase 3: Deep Dive (Summaria)

特定された文献をSummariaにインポートし、専門家レベルの精読と日本語レポート作成を実行。

Result: 網羅性と精度の完全な両立

結論：「検索」から「意思決定」へ

AIは専門家を代替するものではない。データの収集と読解という「作業」から解放し、高度な戦略的「意思決定」へとシフトさせるための翼である。

- Summariaで今のワークフローを即座に効率化する。
- PatsnapでR&Dのカルチャーを変革する。
- **最も危険な選択は、AIの効率性を無視することだ。**

